

Daily Report (号外)

～5月の米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が6月4日に発表した5月の雇用統計は、市場予想を下回る結果となりましたが、経済活動再開による雇用の拡大基調が続いていることが確認された内容となりました。

非農業部門雇用者数は、前月比+55.9万人と市場予想(+67.5万人)を下回りました。前月分は+27.8万人(速報値+26.6万人)に上方修正されました。

業種別では、新型コロナウイルスワクチン普及に伴い、経済活動の再開が進んでいることから、娯楽・接客業が前月比+29.2万人(前月+32.8万人)、教育・ヘルスケア業が同+8.7万人(同+2.5万人)、専門・事業サービス業が同+3.5万人(同▲8.1万人)と増加した一方、小売業が同▲0.6万人(同▲3.0万人)と前月に引き続き減少しました。

失業率は5.8%と市場予想(5.9%)を下回り、前月(6.1%)から改善しました。

平均時給は前年比+2.0%となり市場予想(同+1.6%)を上回りました。

(出所) Bloomberg

市場の反応

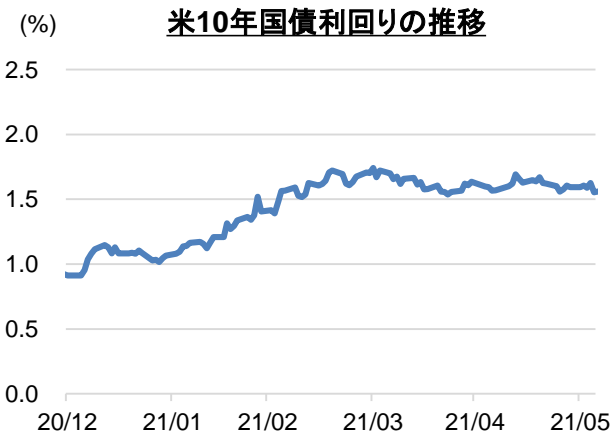
4日の米国株式市場は上昇しました。

米国株式市場は、5月の雇用統計が市場予想を下回る結果となったことで、FRBによる金融緩和策を縮小する時期がやや遠のいたとの見方から、NYダウ平均株価は前日比+0.52%、S&P500指数は同+0.88%、ナスダック総合指数は同+1.47%と主要3指数とも揃って上昇しました。

米国債券市場は、米雇用統計が市場予想を下回る結果となったことで、金融緩和策の継続期待から債券は買われ、10年国債利回りは前日比-0.07%程度の1.55%程度で引けました。

米ドル/円は、米雇用統計の結果から、円買い・ドル売りが優勢となり、前日比80銭程度円高ドル安の109.52円/ドルで取引を終えました。

原油先物市場は、景気拡大で夏に向け原油需要が増えるとの観測から、WTI先物7月限は前日比+1.2%の1バレル=69.62ドルとなりました。



(期間) 2020/12/31～2021/6/4 (出所) Bloomberg

評価・今後の見通し

今月の雇用統計は市場予想を下回ったものの、労働市場が堅調に回復していることが示された結果となりました。

一方、FRBは労働市場の「一段の大幅な進展」を望んでいるものの、コロナ禍前の2020年2月と比較して依然約760万人分の雇用が失われた状況や低い労働参加率が継続していることから、金融緩和の出口に向けた議論については、今月のFOMCではなく7月のFOMC以降に開始される可能性が高いとみています。

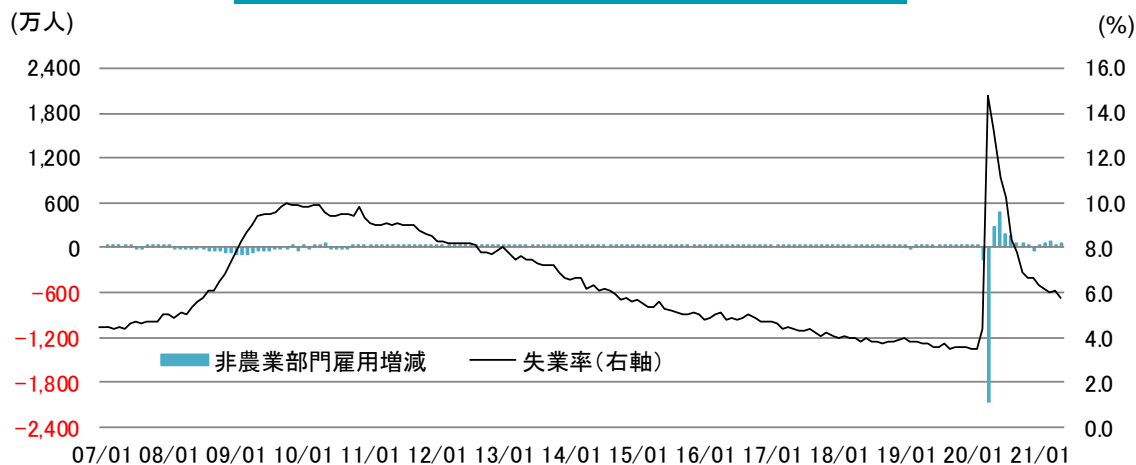
ただし、今週発表される消費者物価指数(CPI)が予想以上に上昇するなどインフレ懸念が改めて意識された場合は、FRBが今月中に金融緩和縮小の議論の着手に動き始める可能性もあり、株式市場にとって短期的な調整局面となる可能性には注意が必要です。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所: 米国労働省

	20/12	21/1	21/2	21/3	21/4	21/5
非農業部門	-30.6	23.3	53.6	78.5	27.8	55.9
鉱工業部門	8.2	-0.7	-2.0	15.9	-3.6	0.3
建設業	4.7	1.2	-5.7	9.3	-0.5	-2.0
製造業	3.5	-1.8	3.5	5.1	-3.2	2.3
資源・鉱業	0.0	-0.1	0.2	1.5	0.1	0.0
サービス部門	-35.6	12.9	64.2	56.5	25.5	48.9
卸売業	1.5	1.4	0.8	1.9	0.6	2.0
小売業	3.0	1.9	1.4	4.2	-3.0	-0.6
輸送・倉庫業	-4.3	0.6	3.6	4.3	-5.3	2.3
情報	0.9	1.3	0.6	0.5	0.9	2.9
金融	1.8	0.7	-0.7	1.3	1.6	-0.1
専門・ビジネスサービス業	15.9	9.0	9.3	7.4	-8.1	3.5
人材派遣業	6.2	10.0	4.8	-0.6	-11.6	0.4
教育・ヘルスケア業	-2.9	-1.4	5.7	10.4	2.5	8.7
娯楽・接客業	-49.8	-1.7	41.3	22.7	32.8	29.2
その他	-7.9	-8.8	-2.6	4.4	15.1	0.6
政府部門	-3.2	11.1	-8.6	6.1	5.9	6.7
失業率(%)	6.7	6.3	6.2	6	6.1	5.8
平均時給(前年比、%)	5.5	5.2	5.2	4.3	0.4	2

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間)2007年1月~2021年5月 (出所)Bloomberg